

東京2020大会と遺産の創出

Olympic and Paralympic Games

TOKYO
2020

東京2020大会と遺産の創出

◆アクション&レガシープラン

本市は、「感動を夢や希望に変えて、新しい元気な福島市を未来へつなげよう！」を基本コンセプトとした「福島市アクション&レガシープラン」に基づき、これまで、多くのアクションを官民連携の「オール福島」で具現化し、遺産（レガシー）の創出に努めてきました。

アクションの実施にあたっては、途中、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、令和2年から3年にかけて、とりわけ東京2020大会本番時においては様々な制約があるなか、思うように取り組みが進められないところもありましたが、そういった中でもやれる範囲のなかで工夫しながら取り組みを進めてきました。

東京2020大会は閉幕しましたが、取り組みはこれで終わりではありません。アクション&レガシープランに掲げた5つの目指す姿の実現に向け、また、本市を取り巻く課題の解決に向け、これからも取り組みを進めていきます。

野球・ソフトボール競技の開催

【実施した主な取り組み】

- 福島駅西口駅前広場に「ふくしまエールビジョン」を設置
- 福島駅西口大庇美装化、福島駅西口ガラス壁面をラッピング
- 福島駅西口駅前広場に「ももりんウォーター（ももりん水飲み器）」を設置
- 福島駅前広場案内サインを整備、東口駅前広場にデジタルサイネージを設置
- 公共施設のトイレの洋式化・無料Wi-Fiアクセスポイントの拡充
- 看板・道路案内標識等の多言語化・まちのバリアフリー化
- 受動喫煙防止対策（受動喫煙防止条例・受動喫煙防止重点区域）

目指す姿：また来たくなる観光都市

【レガシー】

- まちの賑わい
- 福島らしさ、魅力の発信
- 来訪者に配慮した受け入れ環境
- おもてなし体制の拡充
- 受動喫煙防止に対する理解促進

事前合宿の誘致・受け入れ

【実施した主な取り組み】

- 日本・海外代表チームの合宿誘致活動及び合宿受け入れ、交流事業の実施
- スポーツコミッションの創設
- 信夫ヶ丘球場、中央市民プールの改修
- 十六沼公園サッカー場の整備（天然芝コートの新設、クレーコートの人口芝化）
- パラスポーツ団体のスポーツ施設優先予約
- パラスポーツ・ニュースポーツ用具の無料貸し出し
- 日本ボッチャ協会との連携協定締結

目指す姿：選ばれる合宿都市

【レガシー】

- 合宿・大会の受け入れ体制、受け入れ環境
- 競技団体との交流基盤の拡充
- パラスポーツの認知度向上、ファン拡大
- パラスポーツに親しむことができる環境
- パラスポーツによる共生社会へのアプローチ

文化プログラムへの参画促進

【実施した主な取り組み】

- 東京2020参画プログラム、beyond2020の認証取得
- 「エール」遺産の活用と「古閑裕而」のまちづくりの推進

目指す姿：地域が輝く文化都市

【レガシー】

- 地域資源の発掘及び発信
- 福島らしさ、魅力の発信
- 地域の誇りと郷土愛の醸成

ホストタウン事業の推進

【実施した主な取り組み】

- ホストタウンフェスティバルの開催
- スイスパラバドミントン代表直前合宿、ベトナム女子サッカー代表合宿の受け入れと交流事業の実施
- スイス合唱団コンサートの開催、スイス柔道連盟との交流事業の実施
- 高校生による「おもてなしレシビ」の開発
- 学校給食におけるスイス・ベトナムなど外国料理の提供
- 先導的共生社会ホストタウン認定
- 共生社会ホストタウンサミットの福島市開催

目指す姿：未来につながる国際都市

【レガシー】

- スイス・ベトナム関係者との交流基盤の拡充
- スイス・ベトナムとの相互理解の促進
- 世界に向けた福島の魅力の発信
- 共生社会実現に向けた取り組みの推進

大会機運の醸成

【実施した主な取り組み】

- 2020ふくしま市民応援団の創設及び東京2020大会に向けた活動
- オリンピック・パラリンピック教育推進事業の実施
- ふくしま市政出前講座の実施
- カウントダウンイベントの開催
- オリンピアン・パラリンピアンとの交流事業の実施
- 地域の祭り、民間イベントなどと連携した機運醸成活動
- PRツール活用による機運醸成活動（タペストリー・のぼり・フラッグ等）

目指す姿：オール福島で参画都市

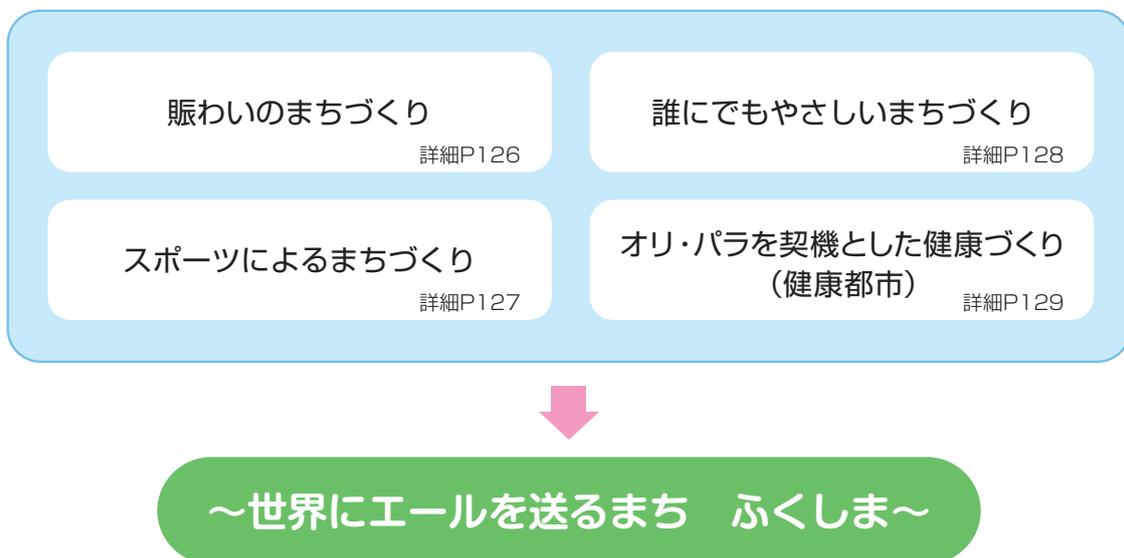
【レガシー】

- 市民の参画機運の拡充
- オリパラ教育によるスポーツの価値、多様性の理解促進
- 大会関連イベント、交流事業参加による感動と記憶

◆東京2020大会を契機とした「まちづくり」

本市では、東京2020大会の開催にあたり、大会の成功・盛り上がりはもとより、開催を契機とした「遺産づくり」に重点を置き取り組みを進めてきました。なかでも、特に力を入れてきたのは、「まちづくり」です。福島駅西口の大庇の美装化やふくしまエールビジョン（西口大型マルチビジョン）の設置、インバウンドを見据えた無料 Wi-Fi の拡充や案内サインの多言語化など、まちの賑わい創出に努めてきたほか、ハード・ソフト・心のバリアフリー、多文化共生の各種事業を推進し、共生社会の実現に向け取り組みを進めてきました。また、スポーツコミッションの創設やスポーツ施設の整備、パラスポーツの振興など、スポーツによるまちづくりの推進、健康都市を目指し健都ふくしま創造事業の推進を図ってきました。

東京2020大会の開催は、まちづくりの面において大きく前に進むきっかけとなりました。復興五輪の理念のもと開催された東京2020大会、本市はこれからもオリンピック開催都市のプライドをもって、「世界から支援をいただいていたまち」から「世界にエールを送るまち」を目指し、東京2020大会の遺産を未来へつなげていきます。



【東京2020大会を契機とした「まちづくり」～これまでの主な取り組み～】

◆賑わいのまちづくり

- ・ 福島駅西口「^{おおひさし}大庇」美装化
- ・ 福島駅西口「ふくしまエールビジョン」設置
- ・ 福島駅西口「ももりんウォーター（ももりん水飲み器）」設置
- ・ 福島駅東口「デジタルサイネージ」設置
- ・ 福島駅西口ガラス壁面ラッピング
- ・ 福島駅東口高速バス乗り場装飾
- ・ 駅前広場案内サイン整備
- ・ 公共施設トイレの洋式化
- ・ 無料 Wi-Fi アクセスポイントの拡充
- ・ 案内板・道路案内標識等の多言語化
- ・ まちのバリアフリー化
(まち歩き点検・段差解消・点字シート敷設)
- ・ 花のまちづくり事業の推進
- ・ 「エール」遺産の活用と「古関裕而」のまちづくりの推進
(古関裕而ストリーートの整備、古関裕而記念館リニューアル、エールドラマセット再現展示、まちなか周遊バスなど)



◆スポーツによるまちづくり

- ・スポーツコミッションの開設・運営
- ・信夫ヶ丘球場、中央市民プールの改修
- ・十六沼公園サッカー場の整備
(天然芝コート新設、クレートコート的人工芝化)
- ・パラスポーツ団体のスポーツ施設優先予約
- ・パラスポーツ・ニュースポーツ用具の無料貸し出し
- ・パラ・ニュースポーツ（ボッチャ）交流大会の開催
- ・日本ボッチャ協会との連携協定締結
- ・パラアスリート派遣事業 など



◆誰にでもやさしいまちづくり

・障がいのある人もない人も共にいきいきと暮らせる福島市づくり条例施行

・バリアフリー推進パッケージ

①バリアフリー推進パートナー発足
及びパートナーミーティングの開催



②出前講座
(心のバリアフリー講座・高齢者疑似体験・手話講座など)



③ヘルプマーク・ヘルプカード普及推進

④手話言語条例の普及推進

⑤いきいき！ふくしまマーケット開催



⑥農福連携普及推進

⑦バリアフリーマスタープラン策定

⑧まちのバリアフリー化【再掲】
(まち歩き点検・段差解消・点字シート敷設)

⑨バリアフリーマップの作成

⑩多文化共生の推進



・先導的共生社会ホストタウン認定

・「共生社会ホストタウンサミット in 福島」開催



◆オリ・パラを契機とした健康づくり（健康都市）

- ・ 健都ふくしま創造事業（beyond2020マイベストプログラム認定）の推進
- ・ 受動喫煙防止対策（福島市受動喫煙防止条例施行・受動喫煙防止重点区域の指定）
- ・ パラスポーツの振興





復興五輪として開催された東京2020大会

コロナ禍の中、大会開催や本市の取り組みに、格別のご協力を賜りました関係者
並びに市民の皆様、誠にありがとうございました。



福島市は、
東日本大震災時にいただいた復興支援への感謝を胸に刻み、
開催都市としてのプライドを持ち、東京2020大会を契機として
「世界にエールを送るまち」をめざしてまいります。

~ Thank You from Fukushima ~

東京2020大会福島市記録誌

Thank You from Fukushima

発行：令和4年3月

発行元：東京オリンピック・パラリンピック競技大会福島市推進室
〒960-8601 福島市五老内町3番1号

印刷製本：(株)山川印刷所



福島市
FUKUSHIMA CITY